

学校で取り組む

情報社会の安全・安心

とは

広教ニュースレター

Vol.7



広教

2010.10

<http://www.hirokyo.co.jp>



玉川大学 教職大学院
堀田龍也 教授

情報モラル教育の実践事例や、校務における情報セキュリティの研修事例などが収録された、書籍『学校で取り組む情報社会の安全・安心』が、今夏、発行されました。これを記念して、今回は、編著者である玉川大学教職大学院の堀田龍也教授にお話をうかがいました。

『学校で取り組む情報社会の安全・安心』発刊に寄せて

ここ数年、子どもたちがインターネットやケータイがらみのトラブルに巻き込まれるケースが多発しています。このような現状から、政治家が、学校へのケータイの持ち込み禁止を唱えたり、子どもたちにケータイを「持たせない」という市民運動が起きたりしています。

しかし、子どもたちの人生から、インターネットやケータイを排除することは不可能です。成長期の、ある一時期に使用を制限したとしても、大人になって社会に出れば、必ずと言っていいほど使うようになります。その際、便利な道具としてインターネットやケータイを使いこなし、安全・安心に暮らしていくためには、情報モラル教育が不可欠と言えるでしょう。また、情報社会の進展に伴い、学校は情報セキュリティを高めることが求められています。

このような状況で、一人でも多くの先生方に、情報モラル教育や情報セキュリティの向上に取り組んでいただきたいという思いから、書籍『学校で取り組む情報社会の安全・安心』を、発刊することになりました。

この本に込めた理念 大切にしたい2つのポイント

この本を制作するにあたり、私たちは次の二つに重点を置きました。

① 子どもだけでなく、教師も学ぼう

『情報社会の安全・安心』を学ぶ必要があるのは、子どもたちだけではなく、教師も、学校が保有する情報の保護に努めるなど、学ばべきことがたくさんあります。教師は、教え手であると同時に、学び手でもあるのです。

そこでこの本では、子どもを指導する方法だけでなく、教師はどんなことに気を付ける必要があるか、学校は、どのようにして情報を守っていくかなどを学ぶ研修事例を掲載しました。

② 「心」の大切さ

情報社会で安全・安心に暮らすには、自分の身を守る方法などの「知識」の獲得と、「心」の育成の両方が大事だと、わたしたちは考えています。いくら知識があっても、それを正しく使えなければ意味がありません。「してよいことと悪いことの区別をつける」「相手のことを思いやる」といった「心」の教育が欠かせないのです。

そこでこの本では、知識を身に付けさせる教育の実践事例だけでなく、子どもたちの「心」を育むための実践事例として、「読み物教材」を使った道徳の授業の実践事例も掲載しました。

全ての先生が安全・安心な暮らしを考える時代

学校教育に携わっておられる全ての先生

生方に、その中でも、特に、管理職や教育委員会などの立場にある方には、この本を読んでいただきたいと願っています。今までの情報モラル教育は、先生による「格差」がありました。力を入れる先生もいれば、そうでない先生もいたのです。情報社会を安全・安心に暮らすためには、どのような機器や教材を準備すべきか、また、すべての先生が情報モラル教育を行うためには、どのような研修を行えばいいかを理解して、実施してほしいのです。機器や教材を整備し、先生による「格差」をなくしていけば、子どもたちみんなが、情報社会を安全・安心に生きる力を獲得できるようになるはずです。

また、「ICTには詳しくないから」「情報担当の先生の仕事だ」と、敬遠していた先生方にも読んでほしいと思います。この本では、約40名もの先生方に協力いただき、具体的な実践事例を多数掲載しています。45分授業での実践、朝の会などを使った短時間でできる実践、教科と関連した情報モラルの内容を授業の一部を使って行う実践など、種類も豊富です。また、ワークシートや授業計画案、用語解説集も付属していますので、すぐに実践できます。

学校に一冊常備し、是非みなさんで読んでみてください。そして、どうすれば情報社会を安全・安心に暮らしているのか、考えてみましょう。

(取材 長井寛)

学校全体で取り組もう



「事例で学ぶe-セキュリティ」で

千葉県柏市立田中小学校

<http://www1.tanaka-e.kashiwa.ed.jp/>

校内

研修



学校としての取り組みを取材しました!

学校から個人情報漏洩する事故・事件が後を絶ちません。学校への信頼を一瞬で瓦解させる情報漏洩を防ぐには、校内研修を実施して先生方全員が正しい知識と態度を身に付けることが不可欠。しかし、校内研修で何を、どう教えればいいのかわからないという悩みも聞きます。『事例で学ぶe-セキュリティ』を使えば、そんな悩みも解決。校内研修で『事例で学ぶe-セキュリティ』を活用した事例をレポートします。

校内研修のテーマとねらい

ログインしたままのPCを放置するリスクを知る

学校には、漏洩させてはならない情報が多くあることを確認する

4月下旬に実施。年度初めは成績処理等でパソコンの利用が多くなる時期なので、注意喚起しておく必要がある。そこで職員会議の中で、教頭からの指示・指導事項として校内研修を実施した。



校内研修の様子

校内研修の流れ

①日常の再点検と問題の提起

- ・パソコンがログインされたまま放置されている写真を見せ、問題提起。
- ・校務用PCをログインしたまま教室に放置するケースも見られると指摘。また、職員室も安心とは言えない、無人になる時間帯もあると警鐘を鳴らす。



こうした状況ではないでしょうか?

②ログインしたまま放置するのはなぜ危険か?

- ・『事例で学ぶe-セキュリティ』の「パソコンの放置」を使用し、ログインしたままPCを放置することで起こりえるリスクを提示。



放置することで...



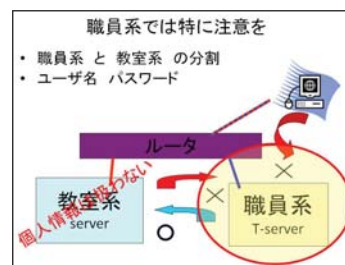
- ・『事例で学ぶe-セキュリティ』の事例のように「教室で成績処理を行う」「来客等で呼ばれ、パソコンを開いたまま離席する」といったケースは、決して人ごとではないことを確認。

③事件例を挙げ、危険性を周知

- ・中学生が教職員サーバから個人情報をコピーし、自分のホームページに載せてしまった事件例を紹介。子どもだからと安心はできないことを伝える。
- ・成績処理画面を開いたままでも、校務用ネットワークに接続した校務用パソコンをちょっと操作すれば、簡単に個人情報を見ることができるとを実演。

④対応方法とルールの再確認

- ・コンテンツのまとめの映像を示しながら、対応方法とルールを確認。
- ・「柏市では校内LANが二系統に分かれており、職員系LANを利用中に放置しないことが重要」「教室系LANでは個人情報は扱わない」というルールを再確認。



柏市立田中小学校教頭 西田光昭 先生

○便利だからと何気なく使っているが、危険も潜んでいることが改めてわかった。
○「ちょっと離席する時に、いちいちシャットダウンするのは面倒。何か良い方法はないのだろうか?」という声も聞かれた。
○日常の場面で、「このような時はこうしてください」という明確な行動指針を伝えていくようにするとともに、学校現場の実態に合った仕様を市教委と調整したい。
○セキュリティ意識を高めるための運用方法を市教委とともに検討していく。

広教ニュースレター は、情報モラルや情報教育に関するニュースや授業実践、また最前線で活躍されている先生方の寄稿や対談などを掲載するニュースレターです。

広島県教科用図書販売株式会社
〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号
TEL 082-291-1088 FAX 082-291-1082
URL <http://www.hirokyou.co.jp> E-mail info-hiroshima@hirokyou.co.jp

広教
HIROKYO 広島県教科用図書販売株式会社